

こども
子供のインターネットバイブル
あんない
案内いたします



ひ おとこ
火の男



ぶん
文: Edward Hughes
え
絵: Lazarus

ほんやくしゃ
翻訳者: Yuko Kajiki 監修者: Dan Ellrick
しゅつばんしゃ
出版社: E. Frischbutter

60 話の第 24 話

www.M1914.org

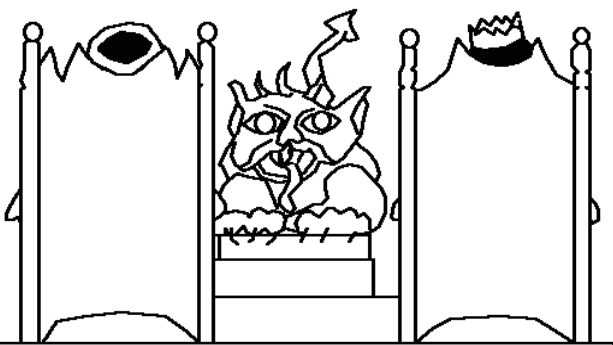
Bible for Children, PO Box 3, Winnipeg, MB R3C 2G1 Canada

許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、又はプリントは、許可されています。

日本語

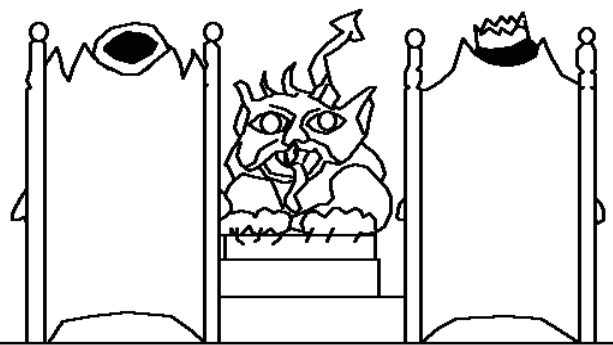
Japanese

イスラエルの国の中は、たいへん。なにもかも、
うまくいってないようです。まず、王さまも、女王さまも、
神さまが大きい。二人とも、ほんとうによくないお手本です。



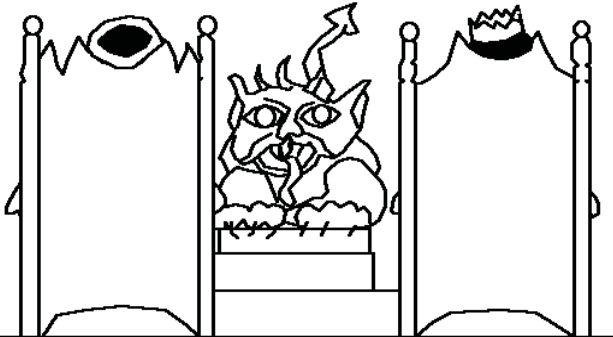
1

だから、この国の人々も、また、神さまが、
大きらいになってしまったのです。みんなは、すぐに、にせの神さまを、
礼拝しはじめました。この国に、だれか、神さまを愛する人が、
いるのでしょうか。



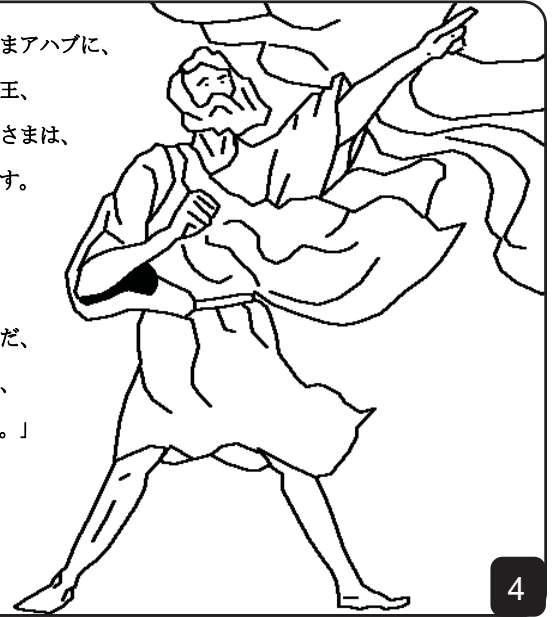
2

そう、いましたよ。心から神さまを信じ、礼拝する人たちが、ほんの少しだけいました。ある日のこと、神さまは、その中の一人に、話されました。その人の名は、エリア。



3

エリアは、ひどい王さまアハブに、言いました。「アハブ王、イスラエルの主なる神さまは、生きていらっしゃいます。わたしが、神さまの「よし」ということばを言わないかぎり、これから何年ものあいだ、ずっと霜もおりないし、雨もふらないでしょう。」



4

これは、たいへん！ききが、やってくるということですね。食べものが、なくなってしまう。神さまは、悪いことばかりしているご自分の民を、そのままにしておかれないのです。



5

神さまは、このように王さまに、

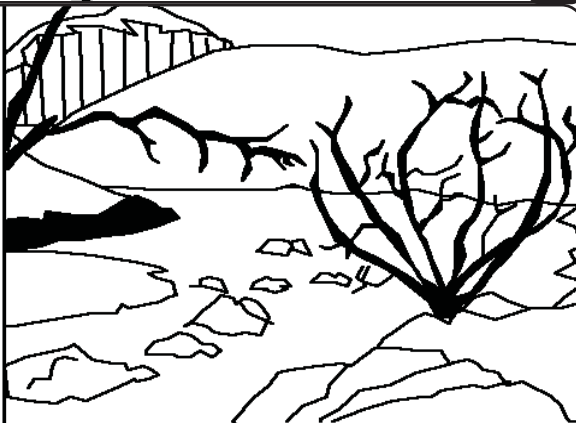
けい告されたあと、エリアを、いなかのしずかな所へ、行くように言われました。エリアは、



その小川のそばで、神さまの次のことばを、待ちましたよ。神さまは、カラスに食べものを、はこぶようにしていただきました。毎日、朝と夕方になると、カラスはパンと肉をもってきてくれます。お水は、小川からくむことができました。

6

でも、すぐに小川は、カラカラ。どうしてって、一てきの雨もふらなかったのですから。神さまのことばは、ほんとうでした。国中の水が、たりません。こくもつは、



大きくなりません。人々は、おなかがペコペコ。たぶん、エリアも、思ったことでしょう。これから、どうなるんだろうって。とうとう小川の水もなくなってしまったようです。

7

神さまは、エリアに言いました。「さあ、エリア、立ち上がって、サレプタへ、行け。そして、そこで住むのだ。ごらん、わたしは、ひとりのやもめに、あなたのせわをするようにって、命れいしておいたからね。」神さまは、エリアに、召し使いが必ようだと、わかっていたらっしゃいました。



8

でも、神さまって、なんて、ふしぎな方法で、必ようなものを用意されるのでしょ。とにかく、エリアは、

すぐに神さまにしたがいました。かれが、サレブタにつくと、その町の入り口では、ひとりのやもめが、たきぎの小さな枝をあつめていましたよ。



9

「どうか、このコップに、水を少しだけませんか。それに、パンもひと口、いただけませんか。」エリアは、

その女の人に、たのみました。女の人は、こたえて言いました。

「パンは、ないのです。一にぎりのコムギ粉が、うつわの中に、ほんの少しの油が、つぼの中にあるだけなのです。」



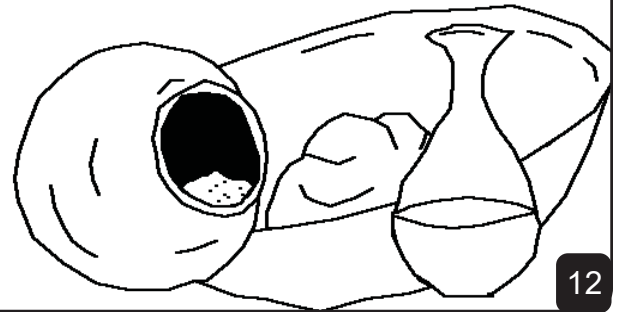
10

女の人は、かなしそうに、よげん者エリアに、言いました。「これを食べてしまうと、わたしとむすこは、食べるものがなくなり、死んでしまうでしょう。」



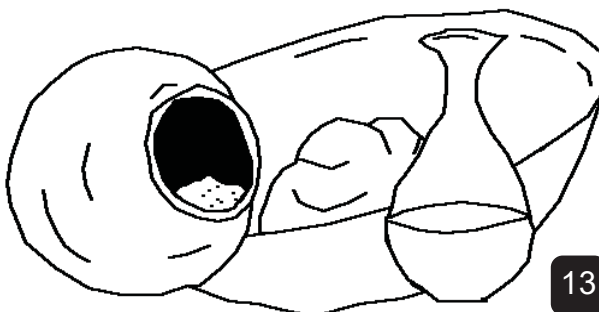
11

「おそれることはない。はじめに、その粉で、わたしに、小さなケーキを作ってください。そのあとで、あなたと、むす子にもケーキを作ってください。」そしてエリアは、言いました。「コムギ粉は、なくなってしまうことはないだろう。油もね。主が、この地に雨を、ふらせてくださる日がくるまで。」



12

神さまは、このために、きせきを、おこされなければならぬでしょうね。そう、神さまは、ちゃんとそうしてくださいましたよ。女の人と、むす子は、それから何日ものあいだ、食べることができました。それでも、コムギ粉のうつわは、空になることはなく、油も、たりなくなりませんでした。



13

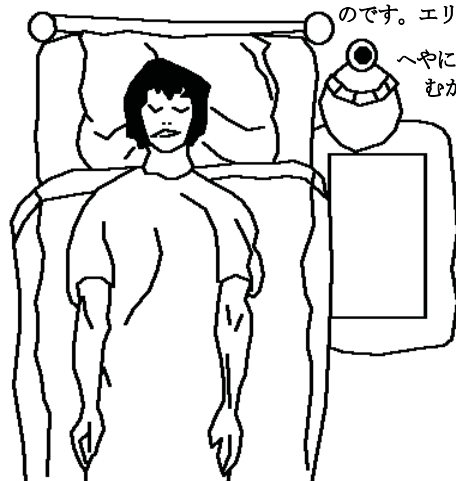
エリアは、やもめの女の人とむす子と、いっしょに住みました。ところが、ある日、かなしいことが、おこりました。そのやもめのむす子が、死んでしまった

のです。エリアは、むす子の死体を、上の

へやに、はこびました。そして主にむかって、さげびましたよ。

「おう、主よ、わたしの神よ！

どうか、この子のたましいを、元にもどしてください。」あれあれ、エリアの祈りは、ちょっとむりじやないのでしょうか。



14

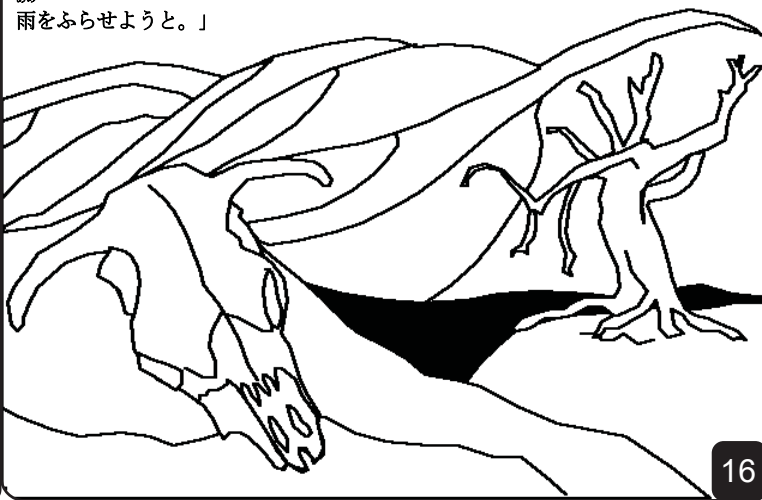
でも、主は、ちゃんとエリアの祈りを、聞いてくださったのです。
その子のたましいは、戻され、生き返りました。エリアが、その子を取り上げ、
母おやに、わたしたとき、かの女は言いました。

「わたしは、今、やっとわかりました。
あなたの口から出る主のことばは、
真実です。」



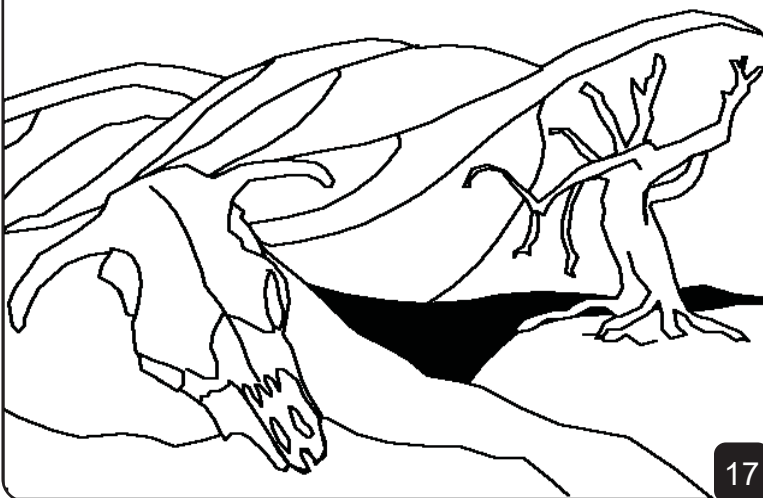
15

それから、3年たちましたよ。神さまは、エリアに、言われました。
「王さまのところへ、行き、こう伝えなさい。わたしは、この地に、
雨をふらせよう。」



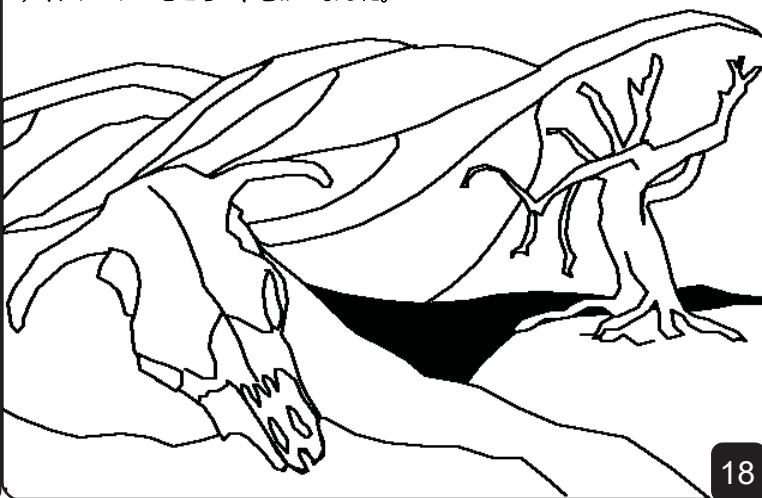
16

えっ、アハブのところへ？アハブのおくさん、イゼベルは、
もうすでに100人ものよげん者を、殺しているのですよ。



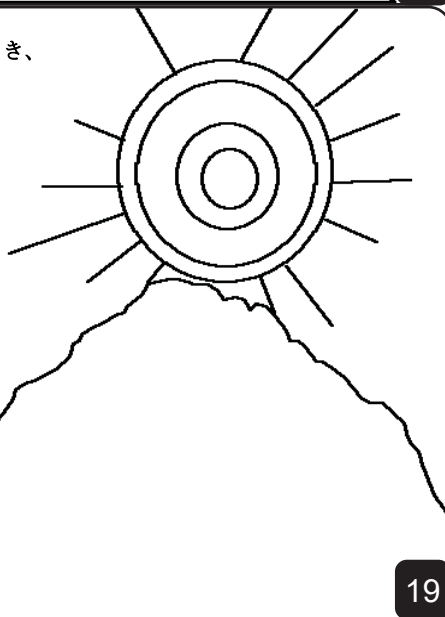
17

だいじょうぶでしょうか。けれども、エリアは、
いつも神さまの言われるとおりに、したがいます。かれは、
すぐにアハブのところへ、むかいました。



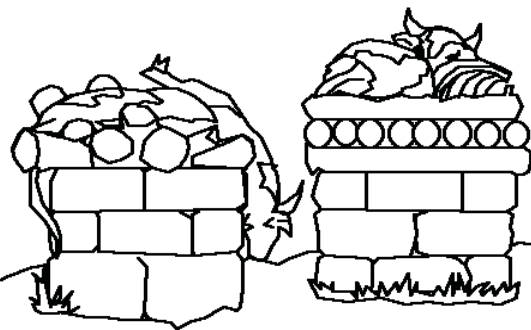
18

アハブ王とエリアが、出会ったとき、
エリアは、王にちょう戦し、
イスラエルの人々と、
にせよげん者850人を、
あつめるようにと、
言いました。そして、
クルメル山というところで、
人々に向かってさげびました。
「みんな、もし、
主が神さまなら、
主にしたがうのだ。」



19

エリアは、いけにえに、2とうの牛を用意しました。けれども、
牛には火をつけないで、たきぎの上に、のせましたよ。「あなたがたは、
あなたがたの神を呼び、わたしは、主の名を、呼びもとめよう。」
エリアは、言いました。「火によって、こたえてくださる神、その方こそ、
神さまなのだ。」人々は、こたえて言いました。「そうだ、そのとおり。」



20

さて、朝から、夕ぐれまで、にせよげん者たちは、いっしょうけんめい。
にせの神さまを、呼びもとめました。とびはねたり、おどったり、
ナイフで自分にキズつけて血をながしたりしながらね。でもね、
何をしても、火がつきません。



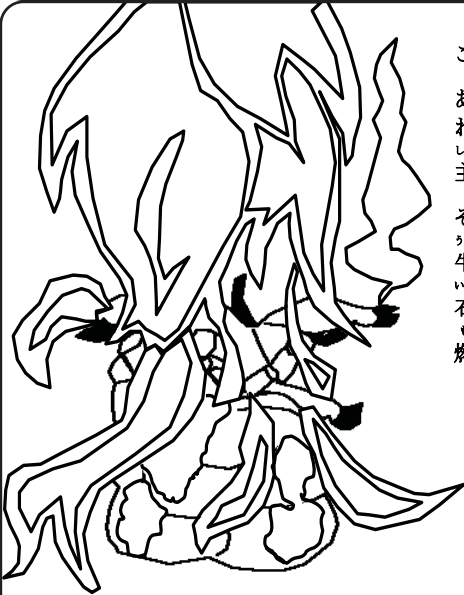
21

さて、こんどは、
エリアのぼん。
エリアは、たきぎにも、
いけにえの牛にも、
水をぶっかけましたよ。
あれあれ、
みんなビショビショですね。
それから、折りました。
「主よ、
どうかお聞きください。」



22

ここの人々が、
あなたが神であることが、
わかりますように。」すると、
主が、火をおこされました。
その火は、ぱあっと燃え上がり、
牛とたきぎにつき、
石の祭壇まで、
燃えつくしてしまいました。



23

それを見たとき、人々は、さげびました。「主よ、
主こそ、神さまだ！」そこで、エリアは、言いました。
「パアルのよげん者を、とらえるのだ。」



24

だれ一人として、ここから、にがしてはならぬ。」
エリアは、アハブ王が、ずっとまえに、
やらなければいけなかったことを、
やりとげたのです。エリアは、
にせよげん者たちを、
みんなころしましたよ。



25

それから、神さまのしもべは、アハ
ブに言いました。もうすぐ、雨が、
やってくるだろうと。まもなく、小さな雲が、
見えてきましたよ。でも、ほんとうに 雨がふって
くるかな？ 3年いじょうも、ずっとカラカラで、

一てきの雨もふらな
かったのだから。



26



しばらくすると、空が、
くもと風で、もう真っ黒。
それから、ひどい雨が、
ふり出しました。とうとう、神さまが、
雨をおくってくださいました。
神さまは、人々にエリアが、
ほんとうのことを話していることを、
示してくださいましたね。

27

みなさん、これでアハブは、神さまと、しもベエリアを、あがめるようにな
ったと思いますか。いえいえ！それどころか、アハブ王のおくさんイザベルは、
エリアを、ころそうとしたのです。でもね、エリアは、うまくにげることができ
ましたよ。そののち、アハブは、



戦っているあいだに、
とうとう死んでしまいました。
では、イザベルは？かの女は、
召し使いに、高いおしろの上から、
まさかさまに突きおとされて
しまいました。ドシン！
石にはげしくぶつかり、
死んでしまったのです。

28



さて、エリアは、
それからどうなったのでしょうか。
ある日、神さまは、エリアのところに、
火の馬がひく火の車を、
おくられました。

29



神さまに仕える火の男エリアは、
その車にのりましたよ。そして、
ぐるぐるとうずまく風とともに、
たかたかく天国へ、
上っていったのです。

30

火の男

神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

列王記上 17 章 — 19 章、列王記下 2 章

あなたの御ことばが聞かれると、光が与えられます。

詩篇 119:130

神さまは、私たちがよくないことをしたことを、しっぺをくらっています。
神さまは、それを罪とよばれています。罪のむくい、死です。

神さまは、私たちをとても愛されたので、み子イエスをこの世におくってくださいまし
た。そして、イエスが十字架で亡くなられることによって、私たちの罪をとってくだ
さったのです。イエスさまは、よみがえられ天国へ
もどられましたね！ですから、今、神さまはあなたの罪をゆるしてくださいます。

もし、あなたがあなたの罪からはなれたいなら、神さまにこう言ってください。
愛する神さま、私は、イエスさまが私のために亡くなってくださり、よみがえって、今また
生きていらっしゃることを信じます。どうか、私のこころの中に入り、罪をゆるしてくださ
い。それで、私は今、あたらしい命をいただくことができます。そして、いつまでも、あな
たといっしょにすることができるのです。あなたの子として、生きることができますよう、
たすけてください。アーメン

ヨハネによる福音書 3:16

まいにち、聖書をよみ、神さまと、おはなししましょう！